

# 佐保会兵庫県支部だより

## 第 29 号

佐保会兵庫県支部事務局

神戸市北区北五葉2-3-8  
〒651-1131 TEL・FAX078-592-1464



曾谷愛子 (S12家) 画

### 長谷川千鶴先生を悼む

山本 よしみ (S33家食)

戦後、奈良女子大学が再出発する14年前に、佐保会によって佐保女学院が開設されました。その後、佐保短期大学に発展し今日に至っています。佐保会の諸先輩の意欲と軸になって活躍された前理事長長谷川千鶴先生のエネルギーに敬服します。時代の流れを見据えて、幼稚園と保育園を開設したり、高齢社会を迎え資格取得のための学科開設や軽費老人ホーム「佐保苑」を開設したりするなど、後進の育成と長寿社会の受け入れを見事に実現されました。その間、先見性と事業にかけける熱意で法人化に努力され、最後まで佐保会の発展に尽くされました。しかし、長谷川先生は平成17年4月11日、93歳の生涯を閉じられ、笑いを交えた総会の議事進行も聞くことができなくなりました。

私が夢と希望をもって奈良の地を踏んだのは、焼土に一筋の光が差し込みかけた頃でした。日本中が、日々の生活の糧を求めて血眼になっている間に高度経済成長期を迎え、気がつけばGDPが上昇し世界中から驚異の眼でみられていました。戦後の白紙状態の中で、モノ、カネを追い求め、置き忘れていた日本人の誇りと新しい価値観のもとで、ココロを構築しようとして跪いているのが我が国の現状ではないでしょうか。現在の安住した生活を「持続可能な社会」として子孫に残さなければなりません。難しい国内外の問題に方向を誤らないように取り組み、二度と過去の過ちを繰り返さないために、戦後60年を迎えた今日、日本の将来を責任をもって考えましょう。これからも、初心を忘れず奈良の温もりを大切に、佐保会の繋がりを心の支えにしたいと思います。

長谷川千鶴先生のご冥福をお祈りします。

# 平成17年度 佐保会兵庫県支部総会

平成17年5月1日(日)シーサイドホテル舞子ビラ神戸

## 元気をもらった佐保会

百歳を越えなおお元気な加藤咲子さんをはじめ、お若い方々まで七八名の参加があり、今年の総会も盛況でした。会場からは、明石大橋が目前に見え、料理も素晴らしくて、終始なごやかな会合となりました。

受賞者紹介では、長い間幼児教育に携わって来られ、双光賞を受賞された山川はる江さん、調停委員として業績を遺され、藍綬褒章を受賞された萬代千鶴子さんが、会の進行に華を添えられました。「調停委員の仕事は自薦も可能になったので是非挑戦してほしい。」という情報をいただきました。

講演会では、元神戸中央市民病院脳神経外科部長の尾形誠宏氏が、脳の仕組みについて、専門的でも



萬代千鶴子さん  
(S31文教)

川口 登美子 (S39家食)

分かり易くユーモアを交えてお話し下さいました。脳の老化防止に大事なものは、「新しいことを始めよう」とする気持であること。「人の目は気にしない」「失敗を恐れない」「結果は問わない」こと、この三つを忘れずに挑戦して欲しいと締めくくられました。

来賓の有馬先生は卒寿を前に矍鑠たるお姿を見せて下さいました。また、卒寿を過ぎられお元気な八木静子さんからは、「私はこれからも佐保会を休まないから、皆さんも欠席しないように。」と嬉しいお言葉でした。

終わりは、内匠慶子さん指揮、藤井勢子さんバイオリンで校歌を斉唱しました。



### 卒寿のお慶び

S11卒業

内藤 顕子様(文)  
大西 千枝様(家)  
藤本 高子様(保)  
柳 和子様(家)

### プログラム

- 1 物故者に対し、黙祷  
開会のことば
- 2 支部長挨拶
- 3 新入会員紹介・自己紹介  
議長選出
- 4 議長選出
- 5 議事
- 6 ① 平成16年度事業報告  
② 平成16年度会計報告  
③ 平成16年度会計監査報告  
④ 平成17年度役員紹介及び承認  
⑤ 平成17年度事業計画  
⑥ 平成17年度会計予算  
⑦ その他
- 7 ① 記念品贈呈  
② 卒後55年のお祝い  
③ 卒寿のお祝い
- 8 講演 尾形誠宏氏  
元神戸市民病院脳神経外科部長  
「知って欲しい脳の常識・非常識」
- 9 来賓の挨拶
- 10 会食
- 11 各部報告
- 1 本部報告
- 2 佐保短大報告
- 3 大学婦人協会報告
- 4 佐保婦人学級報告
- 5 「若草」報告及び平成17年度委員紹介
- 6 「睦会」平成17年度担当者紹介
- 7 第29号「支部だより」編集委員紹介
- 11 閉会のことば

— 講 演 —

# 知って欲しい脳の

## 常識・非常識



元神戸中央市民病院  
脳神経外科部長

尾形 誠 宏 氏

脳の特徴と脳の老化防止について、楽しくわかりやすく講演をして下さいました。

**脳の特徴**  
人間の脳は、基本的には男女差はない。多くの酸素を使い、血流が多いなどのお話の合間に、「ため息は、緊張状態にある脳の脳圧を下げる働きをする。」と伺い、日頃、ついため息をついてしまうことの多い私たちが、会場に笑いが広がりました。

脳の老化は防げるか？

神経細胞は胎児のときに生まれ、出生すると減り続け、70〜80歳になると重さもずいぶん軽くなりますが、シナプス（細胞と細胞のつなぎめ）は、「六十の手習い」といわれるように、新しい刺激や情報を得る努力によって、高齢になっても作る事ができます。そのためには趣味を持つことや図書館・音楽会・講演会などに出かけていくことが有効です。

物忘れは薬では治せず、繰り返しいろいろな記憶を与える努力で防ぎます。忘れてはいけないことは、反復して五感を使って覚えるようにすること。

脳の若さを保つためには、年をとっても新しいことにチャレンジする勇気が大切で、無為徒食が一番いけないそうです。最後に、尾形先生ご自身の老後の生活のモットーとして、

賢沢は要らない  
自分らしく生きる  
の二点を挙げてお話の結びとされました。

熊野古道の佐藤春夫記念館で、詩人の肉声による朗読を聴いて感動されたご経験を熱く語られる先生が印象的でした。肉体は老いても、青春を心でとりもどすことは可能だということを知り、誰もが避けて通れない老後の生活に、足を踏み入れる希望と勇気を与えていただきました。

山本 裕子 (S52文国)

### 木岡悦子さん (S25家) の防災ベスト

総会で見せていただいたベストです。難燃性素材できており、持ち出し品の収納のためポケットが多用されています。

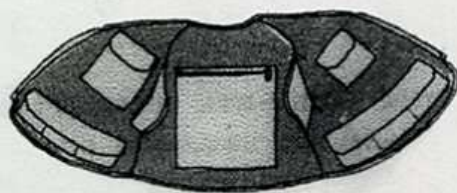
木岡さんは震災の被災者として、また研究者の立場から、災害時における衣服の問題に取り組まれています。

災害時の備えについて今一度考える機会になればと思い、ご紹介します。(八巻)

ポケット付ベスト



(表)



(裏)

# 会 の 標

## 佐保婦人学級と若草

寺田 翠 (S37文幼)

「佐保婦人学級について」

佐保婦人学級の過去をひもとけば、生涯教育を礎とし会員相互の親睦と、「いつまでも健やかに美しく心豊かに」という目標を掲げて発足したのが二十三年前のことです。当初から先達は、社会にも還元すべく佐保会員以外にも開放されて、実生活に即した賢明で合理的な内容で展開されてきました。私自身初めて参加した時は、錚々たる先輩方に圧倒されました。然しそこは同窓の誼でしようか、先輩後輩と分けへだてなく対峙していただき、自然に解け合っていました。同時に多士済々、佐保会の人材の豊かさ深さもわかりました。立派な講師に巡り合い多方面に亘って楽しみ学ぶことができているのは大きな収穫です。今は先輩の意思を継続しつつ会員の皆さま



と和気藹々堅実な歩みを続けている現状です。

「若草について」

佐保婦人学級とは対照的に六十才以下の方を中心に、佐保会の活性化を目指して発足したのが十三年前のことです。相互の親睦を図ると共に躍動的な気力と実践力を生かした活動内容で運営されてきました。年齢は四十年代五十代を中心に意欲旺盛で、コンサートやバザーをはじめ、芸術鑑賞、植物園や歴史的文学的な名所旧跡見学、食事会など…運営委員も地区ごとに代わりそれぞれが趣向を凝らした斬新な企画で実施されました。ここにきて「佐保婦人学級」と「若草」を比べてみると、重要な顔ぶれであることを感じます。折から二つの会を発展的統合してはどうかという声も高まってきました。会に対する思いは多々ありましようが、これも時代の流れと思い統合することで三月の役員会、五月の総会で承認されました。

「ゆずりは」

新しい会の名前は「ゆずりは」となりました。漢字は「標」と書き辞典によると、新しい葉が成長してから古い葉が譲って落ちるのでこの名があります。葉を新年の飾り物に用いるため新年の季語。ゆずり葉について次のような詩がありますのでご紹介します。

●ゆずり葉●

河井 醉茗

世のおとうさん お母さんたちは  
何一つ持ってゆかない  
みんなお前たちに譲ってゆくために  
いのちあるもの よいもの  
美しいものを  
一生懸命に造ってゐます

標の会の発展を願うと共に、皆さまのあたたいご指導とご協力をお願い致します。

逢ったむパーティーその後

瀬川 順子 (S41文英)

「今日のこの日が皆さまの大切な記念日となりますよう」。乾杯の時、こんなことを言った記憶がある。うれしいことにこの願いは実現した。東灘、中央、北、須磨、垂水と各区が企画・開催を引き継いだ「逢ったむパーティー」は4回を数え、その間に4組の方々がかめたく結婚された。これまでの様々な苦勞が報われた思いである。

平成17、18年度運営委員

鈴木 久子 (06-6491-9481) 桑名 好恵 (078-997-1404)  
寺田 翠 (078-911-5364) 山中 邦子 (078-991-2506)  
川口登美子 (072-793-9624) 小管 広子 (078-992-3531)  
射延 瑞枝 (0794-84-1998)

※入会は随時 佐保会員以外の入会も歓迎  
※会費 年間1000円 当日のみ参加300円

## 平成17・18年度櫟の会予定

月日	内容	会場	時間	講師(敬称略)	備考
H17. 12. 14(水)	書道「百人一首」	神戸市立勤労会館	13:00~15:00	川口登美子	小筆、半紙など
H18. 2. 8(水)	手芸「雛人形」	神戸市立勤労会館	13:00~15:00	都筑久美子	紙細工
3. 25(土)	文学散歩	芦屋市	集合10:00 阪急芦屋川	岩城尚子	
4. 12(水)	古典を楽しむ 「平家物語」	神戸市立勤労会館	13:00~15:00	林茂代	
5. 13(土)	親子料理	生活創造センター 4階創作工房	11:00~15:00	荻田美代	材料費1000円
6. 7(水)	食物と健康	神戸市立勤労会館	13:00~15:00	桑名好恵	
7. 12(水)	トーク 「アジアの中の日本」	神戸市立勤労会館	11:00~15:00	研修生	
9. 13(水)	唱歌を歌おう		13:00~15:00		
10. 11(水)	美術鑑賞			学芸員	解説を聞いて鑑賞
11. 8(水)	紅葉の丹波を訪ねる	バスツアー	集合8:30 三宮東急イン前		費用 約6000円
12. 13(水)	書道	神戸市立勤労会館	13:00~15:00	川口登美子	小筆、半紙など

## 「櫟の会」に参加して

山中 邦子 (S53文英)

五月十四日、お天気の心配など何処へやら、新緑の輝くすばらしい晴天となりました。新生「櫟の会」第一回目の行事で、西区の農業公園内にある陶芸館へ行きました。事前のPRの機会が総会でのお知らせだけで、参加者は九名だったものの、バス停から陶芸館までの道すがら、羽を広げた孔雀の美しさにしばし見とれ、たくさんの花をつけた赤い薔薇を愛でながら、私たちは遠足気分陶芸館へ。陶芸体験はそれぞれ自分の好みで、手ひねりあるいは絵付けを選んでいよいよスタート。指導員の方の説明を聞きながらのトライでした。参加者の中のある先輩は、陶芸に精通された方で随分助けていただきました。おかげで一時間半程で、花瓶ありマグカップありで全員作品を完成することができました。焼きは陶芸館にお任せして仕上げは後日のお楽しみとなりましたが、きっと今頃はリビングやキッチンでひとときわ輝いてい

ることでしよう。陶芸体験の後にはレストランで昼食をいただきながら、先輩から大学でのエピソードをうかがうことができ楽しい一時となりました。年代を超えての交流を陶芸を通して持つことができ楽しい一日を一緒に過ごさせていただきました。本当に有難うございました。



## — 哀 悼 —

桜井 静子様 (S6文) H16. 8. 7没  
石原 むつゑ様 (S7文) H16. 7. 4没  
徳山 文興様 (S3家) H17. 2.20没  
兎山 敏子様 (S18理) H17. 3.15没  
魚崎 茂子様 (S10理) H17. 6.20没

## 平成16年度「睦会」報告

角野蓉子 (S36文国)

第29回睦会は、11月14日(日) 舞子ホテルで40名の出席をもって開催されました。会場は3年続いて同じ場所ですが大好評で、松の緑が美しいお庭で写真撮影の後、季節の日本料理をいただきながらお席ごとの歓談がはずみしました。

会は、昨年のようなゲームや余興はなしにして、全員の自己紹介とお話に時間をとりました。昭和51年の第1回からご出席の八木様、橋爪様をはじめ大先輩のお話には深く感動いたしました。

これまでのご経歴に加えて、現役のお仕事で今も活躍のごこと、ご趣味に精出されていること、「夫を大事になさい。」のご忠言もあって、それぞれの人生の熱く貴い思いがじーんと胸に響いてまいりました。すばらしい先輩のいらっしゃる母校を誇りに思いますと共に、支部総会より小規模で、親しみやすく話しやすいという睦会の意義を改めて感じました。

昨秋は度重なる台風や新潟地震など各地に多くの被害がありました。が、会の最後に、「繰越金の中

から10万円を兵庫災害本部(豊岡・淡路などの被災地)に義援金として送る」旨、満場一致で承認され、手続きいたしました。

会終了後、初めてのご出席者か何人もの方から「よかった」とご満足のお声を聞き、また、写真送付後のお返事も多数いただき、身に余るお礼のことばに感謝と恐縮の気持ちでいっぱいでした。

当番の同期の者(当日出席10人)も、3回ほどの準備会のおかげで、旧交を温めることができました。

### 睦会平成18年度当番 昭和38年3月卒業生

### 新しい垂水の魅力

舞子から塩屋まで、遊歩道が整備され「垂水なぎさ街道」と呼ばれています。



区の花 セラニウム

平成10年海辺には美しい砂浜「アジュール舞子」が復元され明石海峡大橋も開通して新しいレジャーゾーンが生まれました。この世界一の吊り橋はその名の通りパールのような輝きで夜空にきらめいています。アンカーレイジの中を

### 平成17年度新入会員

学 部	氏 名	地 区
理 数	田中 子	尼崎市
理 数	西村 希	城崎郡
理 数	野村 香	姫路市
理 数	森崎 敬	龍野市
理 数	山崎 直	加古郡
理 生	立川 奈	明石市
理 情	小島 摩	東灘区
理 健	澤井 夕	長田区
生 環	新藤 温	須磨区
生 環	藤志 奈	東灘区
生 環	志村 知	尼崎市
生 環	寺川 奈	西宮市
博 前	板東 真	尼崎市
博 前	龍野 征	芦屋市
文 古	代岡 倫	西脇市
文 古	代山 紘	姫路市
文 古	代部 真	姫路市
文 社	情高 洋	尼崎市
文 言	情橋 和	朝来郡
文 日	語馬 瑞	高砂市
文 ス	ポ酒 朋	東灘区
理 数	竹村 祐	芦屋市

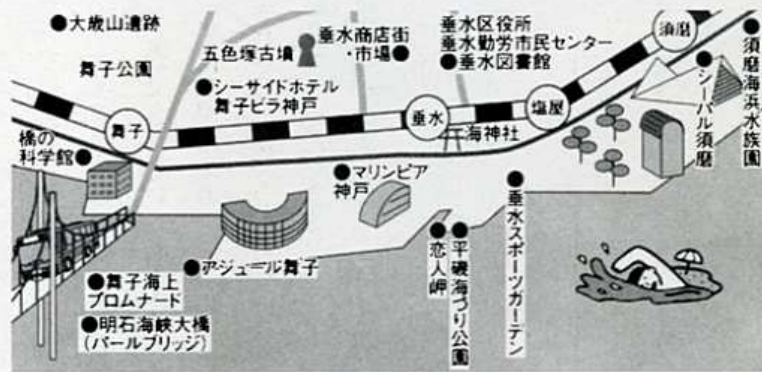
エレベーターで50メートル登ると、そこは明石海峡を散策できる「舞子海上プロムナード」です。ガラス張りの床面からは橋の下を行き交う船が見え、スリル満点です。

マリンピア神戸には塩づくり、乾のりづくりなどの体験学習の場「さかなの学校」や、南欧の港町を彷彿とさせる「ポルトバザール」があり若者達で賑わっています。

東部地域に広がる平磯緑地の海岸沿いには海釣り公園があり、大橋や淡路島を眺めながら家族でのんびり釣りが楽しめます。

塩屋漁港には、青い空と海の間、鮮やかなオレンジ色の屋根をしたのり加工場がひときわ美しく佇んでいます。

潮騒の音を聞きながら散策されてはいかがでしょう。



## 平成17年度 地区リーダー会&amp;もより会報告

会員数	地区名	氏名	卒業年学部	もより会報告	会員数	地区名	氏名	卒業年学部	もより会報告
82	東灘区	森口 房子 平井 通恵	S43理数 S47家被	17.10開催	49	明石市	寺田 翠 橋本 陽江	S37文幼 S50理修北	17.11予定
34	灘区	加藤 慶子 吉田 扇	S41文史 S41家被	17.9	32	加古川市	永田登喜代	S45理数	17.秋予定
35	中央区	右田 俊子	S52理物	17.11予定	12	高砂市			
9	兵庫区	田中加代子	S47文教		9	加古郡	田中 明子	S43文幼	
14	長田区	赤松 和子	S52文教		12	三木市	森本 寿美	S49理化	17.秋予定
46	北区	山村紀美子 衣笠 弘美	S34家住 S41文体	17.秋予定	9	加東郡	田中 幸恵	S48家修住	
43	須磨区	山田 桂子 中島 悦子	S31文幼 S34文地	17.11予定	0	多可郡			
59	垂水区	松浦 博子 大田奈緒美	S36家食 S37理化	18. 予定	4	西脇市			
52	西区	山中 邦子 新小田淑子	S53文英 S59里化	17.秋予定	2	小野市			
56	尼崎市	藤岡 利子 正岡 康子	S38家被 S49文教	17.4開催	3	加西郡			
94	西宮市	永吉 和子 北川 清子	S34理化 S40家食	17.5開催	0	美囊郡			
48	芦屋市	山崎 渺美 福井千佳子	S39文教 S40理化	17.秋予定	89	姫路市	新穂千賀子 畑岡美智子	S43理世 S43理生	17.10
33	伊丹市	塚口 郁子 都築 映子	S35家住 S37家食	17.5開催	6	相生市			
68	宝塚市	荒井とみよ 伊藤 朋子	S36文国 S17博後人	17.11予定	5	赤穂市			
42	川西市	川田 多栄 石原 範子	S45家住 S47物理	17.7開催	1	赤穂郡			
6	川辺郡				7	龍野市			
					15	揖保郡			
					12	神崎郡			
					6	飾磨郡			
					3	粟粟郡			
					14	但馬地区	米田 純子	S40理動	17.11予定
					22	三田市	河野 薫子	S41理化	
					2	篠山市	小林 嘉子	S37家被	
					8	氷上郡	足立 瑞穂	S42家修食	
							廣内 保子	S44理植	
					12	淡路地区	由井 弥生	S42家被	

## 私たちのもより会

## 尼崎地区

藤岡 利子 (S38家被)

尼崎もより会に初めて私が参加したのは、夫の転勤で転居してきた直後の昭和五十二年頃でした。武庫之荘の佐藤様宅での集まりでしたが、皆さまには初めてお会いしたとは思えない親密感と心強さを感じたことを覚えております。

その後、地域ごとに当番を決め一年に一回、先輩方の良いアイデアやお力をお借りして、近隣の名所旧跡をはじめ、いろいろな所へ見学あり、講演あり、ご馳走ありで、毎回十数名から二十名近い会員が集まりました。珍しかったのはオペラ鑑賞とか、子供連れでの神戸港遊覧でした。平成に入り時々伊丹との合同もさせていただき、伊丹の方々との交流や、他の地区の方も参加して下さったりと輪が広がっております。当日の会費を少しでも安くしようと、ご案内の往復ハガキ代を往信だけにしたり、係が手分けして電話連絡するとか、今後はパソコンメールはどうかな等、頭をひねっている実情です。

尼崎に住みついて二十数年、広域な同窓会以上の親密感・安心感で、教わったり、誘われたり、家族ぐるみで親しくしていただいたり、他の大学にはないだろう「もより会」を有難く思っております。

## 丹有地区

小林 嘉子 (S37家被)

数年前になります。三田地区の当番の方から声がかかり初めてもより会に参加しました。三十代が中心で十数名の参加があったと思います。初顔合わせなのに、同窓ということ年代をこえて会話がはずむ不思議な縁がとても印象に残りました。

それからしばらくご無沙汰の後、四年前に当番を引き受け、氷上地区にも声をかけて篠山の秋まつり見物を組み込んだもより会を計画しました。この地区には三田市在住の比較的若い世代の方が多く、篠山まで足を運ぶのはちょっと抵抗があったのでしようか、参加者は数名。でも人数はともかく、同窓という不思議な縁は健在で会話に花が咲き、来年も楽しみという期待に込めて今日に至っています。

住みなれた地域の名所を訪ね土地の味を楽しむ行事は、時間にゆとりのある世代向きで、忙しい若い世代の方にとっては参加しづらいところかもしれません。

老いも若きも集うもより会の行事としては、より工夫が必要でしょうが、毎年新しいメンバーが加わり、自然豊かで伝統的な地域に生活の場を持つ集いは、生活情報交換の場ともなり、エネルギーをもたらしたりあげたりのご縁で結ばれています。

## ちよつと変わった?

### 戦後六十年の節目にあたって

今、教育、時代認識、地域など大きな変換のときを迎えているようです。垂水区の会員にハガキでアンケートをお願いしました。



### 女高師の思い出

お手紙をいただき懐かしい昔のことを思い出しております。私どもの頃は校舎が木造の二階建てで、長い廊下を授業に通いました。寮は一舎に三つの部屋と食堂、炊事場、洗面所があり、十二・三人が一つの家族として暮らしました。縁側での憩い、順番でまわってくる炊事での失敗など次々と思いがたります。また、奈良での古くからの行事もできるだけ見学するようにと出かけました。行事が夜にかかるときには先生が「女高師」と記したちようちんを手を迎えに来て下さいました。等々胸に抜がりますが、十分にお話できなくて残念でございます。

(七十才以上)

### シニアになって

一九三一年生まれ、昭和ヒトケタ少国民世代として、あの十五年戦争、戦後六十年、思うこと多い日を過ごしています。残り時間の

少ない自覚、知らないことの余りに多いこと、自分なりにせいっぱい勉強し、考えてわかりたいと思っております。

(七十才以上)

卒寿を迎え年月の重みを痛感しています。中でも五十四年間の職業生活感慨ひとしお。想い出はつきません。只今は老いとのたたかいの日々。心のよりどころを求めて南画、写佛、手芸、パッチワーク等豊かな時間を満喫しております。した頃に少しでもあやかりたいと願いつつ、健康管理に専念しております。



感動は心のビタミン剤、せまい生活空間

に埋没することなく常に関心を持って前向きに歩んでまいりたいと願っております。余白の人生も生きるに価する意義あるものでありたいと思えます。

(七十才以上)

我々の世代は兄弟も多く長男が親と同居し老後を看る、これが当たり前前の意識であった。今、自分たちの老後を考えるとき、子は1~2人と少なく、サラリーマンは転勤も多く、住宅事情もあり、気持ちはあっても現実には我々が親にしたような世話は無理である。子に期待して裏切られた話もよく耳にする。我々の世代が最もこれらの考え方をかえる必要があるように思うのである。

そこで私は「親の世話はできなくてもそれを子に望むことはすまい。遠くにいても元気で幸せでいてくれたら最高。人はいつか死を迎える。それまでの間、喜怒哀楽すべて受けとめて生きよう。」そう考えるようにしたら、少しの親切も好意もありがたく思えるようになった。子を頼らぬ以上、それなりの生活の仕方を考え、知恵も生まれ、ボケ防止にもつながっているようである。あとは、「公的老人看護」の充実を期待している。

(六十才代)

### 子育ての基本

幼稚園の教育現場で最も危惧することは両親がおとなに成長してないいうえに、子育ての基本がわ

かかっていない状態にあることです。私はまず人間が動物であること、排泄すること、身体の諸器官の機能をしっかりと鍛えることが大切だと思っています。生きていくためには苦しくても我慢をすることも大切だということを感じとらせたと思っています。

私にできることは何か。「小さなことでもよい。おまえがやらねば誰がやる。今やらねば何時やれる。」といいきかせながら積極的に関わっています。時々しんどくなりながら。

(六十才代)

### 結婚について

大学を卒業して四十五年もすぎると、一番変化したのは結婚観だと思えます。当時はまだ「しなくては」という時代で結婚がある種の逃げ道だったような気がします。

職業選択の幅が拡がり、結婚しなくても特別な人と思われなくなりました。それだけ一度きりの人生に対する責任が重くなったとも言えます。いろいろな場面での選択肢がふえればふえるほど、悩みも多くなりました。これからはシニア後の生き方も家族や親戚だけに頼らない時代となるので、ますます、結婚の形は変化していくと思えます。

(六十才代)





女性の生き方も多様化してきた。結婚も出産も個人の自由であるが、出生率が一・二九と知って驚くと同時にこれからどうなっていくのだろうかと不安になる。私たち女性は結婚して子供を生み、育てるのを当然のこととして受け入れてきた。そして家庭と仕事を両立させ、今なお現役で活躍している人もいる。

◆ 昨今、親になるという自覚もなく子供を生んで虐待にはしる痛ましい事件も多く、また親の愛情をたっぷりと受けないで育ち、非行にはしる子供も多くなったように思われる。そのような意味で世の中がだんだん悪くなっているのではないだろうか。

◆ 現在、結婚より仕事を選ぶ女性も多くなっているようだが、優秀な女性ほど子供を生み育てて欲しいと願望している。そのためにはどうしたらよいか、是非、本音を聞かせて欲しいと思っている。

(六十才代)

## 最近のニュースから

先日朝日新聞の隅っこにあったフリッターやニートの増加についての記事「食べるだけの時代は終わったのだ」と言う言葉が頭から離れません。豊かな時代に、我々の時代の道徳や習慣が消えていくことは確実だと思います。

◆ 食べるために働くことに変わる「何か」を見つけれれば、新しい秩序も少しずつ形成されてくることでしょう。

(七十才以上)

◆ 私は昭和十四年三月の卒業生です。戦後満州から引き揚げ、私学で停年まで教職についておりました。

◆ 時代は戦後大きく変化し、教育現場に於ける指導者の意識及び質の低下には驚きより将来に対する不安を強く感じます。ある地方新聞紙上で目にしたことですが、関西のある中学校の男性教師が午後の空き時間を利用して学校の近くの飲み屋で日常茶飯事的にビールを飲んでいるのと、驚きより教師としての意識養成に問題があるのではと思わせられました。私どもの時代のきびしい指導に今更のように感謝申し上げる一方、国として教育者養成（ことに低学年に対する）の重要性についてお

◆ 考えたいだきたいと存じております。

(七十才以上)

◆ 最近子供の連れ去り事件が小学校区内でよくある。登下校時や放課後外でのびのびと過ごせない時代である。連れ去ろうとしている人に言いたい。他人の子供を連れ去って行っても楽しいことは何一つない。子供の笑顔は、毎日寝食を共にし、成長を見守り、少しずつできるようなったことを一緒に喜んで親のみに与えられたものである。「おやつやおもちゃを買ってあげる」といって誘っているようだが、そんなときの笑顔は一瞬だ。あなたはきつとかわいの子供と一緒にいたいのでしょうか。それならあなたは自分の子供を持てばいい。私たち親がどんな長い道のりを経てここにいたっているか考えてみて欲しい。あなたもその努力をして世界に一つだけの自分の子供の美しい笑顔に出会えばよい。子供は落ちていなくてもコンビニで買えるものでもない。

(三十才代)

◆ 戦後六十年といえは昭和八十年。昭和を生きてきた私には平成の世はあまり明るくないように思われます。

◆ 一つは事故の多さです。JR西日本の大事故、飛行機のトラブル、交通事故、原子力発電所の事故など。原因は色々あるでしょうがその根底には個々の人間の技術力、緊張感、責任感などの低下があるのではないのでしょうか。

◆ また、一つはバーチャルリアリティについてです。映像やロボットなど利点は多くあるでしょうが、テレビで育ちゲームを遊び相手とする子供たち、シミュレーターで研修し現実には失敗する大人たちなど、現実と虚構の区別が希薄になって罪を犯したり、愛や夢が薄っぺらなものになったりします。もっと人間的なものの、本当のものを求めたいと思うのです。

(六十才代)



## 母のことば

◆ 戦後生まれの私は、食糧難の時代を知らない。けれどその時代を経験してきた母から「もったいない」ということを何回となく聞かされ、その精神は引き継いでいると思う。飽食の時代と言われる昨今、残り物をお店が捨てる話を聞くと残念に思う。天候異変で野菜が採れなくなると、

即、世界中から野菜を集める。また年中色々な野菜・果物が出るので昔に比べ旬の味を感じられなくなつた。子供の頃の野菜・果物は酸っぱさや青臭さなど、それぞれが独特の味を主張していた。当時はそれを美味しいとは思わなかったが、五十年代にかつた今それを懐かしく思う。先頃、都会のビルの中で発光ダイオードを使って野菜栽培をしている様子をテレビで見た。栄養的には問題ないと言うが、自然の中で生育する植物という概念が崩れていく気がした。科学の力で自然の領域が解明されるのはいいが、それを単に経済的視点からだけみて開発利用しているように見える。はたしてこれでいいのだろうか。(五十才代)

### 高齢者相談にかかわって

わずか週一回ではありましたが、この三月末まで県の高齢者相談のお手伝いをさせていただいておりました。終えて今なお、私の中ではむなしさばかりが残っています。

この依頼があったとき、私はまだ六十四歳で老人の意識も無く、学校で就職・進学相談をした経験と姑を八十歳から九十歳まで看護したことから、お年寄りのお話をよく聞き、

いい相談相手になろうと思つたのでした。相談が一方的なため、また、相手がいろいろな生きかたをして来られていたので、話もかみあわないことが多く、満足して電話を切つていただくのはとても大変なことでした。時には、今すぐ飛んで行って抱きしめてあげたいと思うほど切ないこともありました。十四年間の経験から、高齢者問題は出口のない迷路の上にいるようなものと、つくづく感じたことでした。

(七十才代)

### 俳句

古川起与子

(S35文国)

八月の電車停めたる不発弾

えごの花挿頭にされよ一ノ谷

筑前琵琶鼓盛弾ずきはやかに

### 幼児の教育

並川 明子

昭和二十四年保育科を卒業した私は母の創設した霞ヶ丘幼稚園を八年間手伝つた後、幼児教育を一生の仕事にしたいと思うようになり塩屋に小さい幼稚園を建てました。その後園児の増加につれて増築を重ねたために継ぎはぎの園舎となり、どうしても理想の幼稚園を造りたいとの思いから明舞団地に二番目の幼稚園を建築しました。後年塩屋幼稚園の奥地に住宅地が開発されたのに十年経つても幼稚園がなく、遠くから通つて来られるのを見かねて三番目の桃の木幼稚園を建てることになりました。

こうして卒業後五十年余りひたすら幼児教育にかかわつてきた私にとつて、思いもかけず平成八年より八年間兵庫県教育委員を拝命し、小中高校の問題等を幅広く審議し心豊かな兵庫の教育を目指して、次々と新たな事業にも取り組んで来ましたが、心配な問題も多

く懸念の努力もすぐには効果も現れず心を痛めました。しかし、幼児教育は一生懸命にすれば一人ひとり伸びが目に見え、誠にやり甲斐がある楽しいものです。若い純粋な教師が一生懸命に保育を進めると幼子たちが目を輝かせて話を聞き、歌い、躍り、多

くの経験をするので二年三年経つうちに目を見張るほど成長して保育者にとつて何にも勝る喜びとなります。しかし、気掛かりなことは少子化の時代に子供同士競い合うこともなく大切に育てられ、辛抱することも少なく逞しさに欠けます。外は危険が多いからと家の中でテレビやゲームで遊び体を動かすことが少なくなつて、運動能力や体力が低下しています。出来るだけ保護者も一緒に外で歩いたり走ったり元気に遊ばせて欲しいと思います。

又、近年乳幼児を持つ女性も外で働く人が増えたため、幼稚園や保育所も子育て支援の延長保育が実施されるようになりました。それでも仕事と家事の両立は大変で、母親が忙しすぎると細やかな気配りと豊かな愛情が不足し、子供は寂しい思いを辛抱しています。祖父母も同居して大家族の中で察し合い、折れ合い、助け合つて暮らす大切さを見直しては如何でしょう。



## 家事調停二十年

由井 弥生 (S42家被)

私は、被服学材料学のゼミで大変お世話になった恩師、辻井康子先生より声をかけていただき、神戸家庭裁判所洲本支部の家事調停委員を四十歳の時から、気が付けば二十年間もの長きにわたり続けております。家事調停といいますが、主には「離婚と相続」とおまかに考えてよいと思います。佐保会の会員の皆さまには離婚問題とはあまりご縁がないかと思われませんが、若年・熟年離婚が多いこの頃ですので、離婚を取り上げたいと思います。裁判上の離婚原因としては次の五つの事由があります。

①配偶者に不貞な行為があったとき。②配偶者から悪意で遺棄(婚姻継続を否定し、同居・協力扶助を正当な理由なく履行しない)されたとき。③配偶者の生死が三年以上以上明かでないとき。④配偶者が強度の精神病にかかり快復の見込みがないとき。⑤その他婚姻を継続し難い重大な事由があるとき。以上ですが、特に⑤は解釈が広く、それでいてこの事由に含まれる事例が最近の調停では多いのですが、

俗にいう性格の不一致、愛情の喪失、侮辱行為、暴行、虐待、父母その他の親族との不和、性的不能等々ですが、①～⑤のすべてにおいて、破綻の原因をつくった有責配偶者からの離婚請求は通らないのが基本です。離婚の同意後、子の親権者の指定、養育費、子との面接交渉、子の引き渡しについては、どちらの親が養育、監護するのが子の利益になるかを最優先に考えます。現実には、養育の環境をかえることの難しさ故に子供の意思表示がない場合、その時点で養育されている環境での継続が圧倒的に多いと思われれます。従って、女性が離婚を前提に別居をする場合、何はともあれ子供を連れて出ることが賢明と思われれます。相手方の方へ置いて出た場合、子供を取り戻すのがとても困難と思われるからです。次に離婚に伴う慰謝料、財産分与の問題となるのですが、離婚に至った原因、有責性により当事者共々よく話し合った上算定します。財産分与については、婚姻中に夫婦の協力によって得た財産を一切の事情を考慮して分与させるべきか否か、分与の額、及び方法を決めます。又、平成十九年四月より離婚時年金分割制度が導入されます。この年金分

割は、夫婦が婚姻中に行うことは認められていませんが、離婚した場合は夫婦がまだ年金を受給していない時点であっても離婚後二年以内に限り、年金の分割請求が可能です。そして分割を行った元配偶者が死亡した場合でも年金受給は継続します。又、退職金についても財産分与の対象になるとする事例もあり、離婚調停は、時代と共に変化しつつあります。以上、何かの参考になれば幸いです。



### 2005年度現代郷土作家展のご案内

姫路市立美術館主催

### 笠木 絵津子 展

(前田政子 S50物理 S52理修物)

展示作品 「遺伝子の旅」 他数十点  
 「明月記の布」  
 期 間 2006年3月4日(土)～26日(日)  
 場 所 姫路市立美術館本館 &  
 姫路市民ギャラリー  
 入 場 料 300円

### 編集後記

アンケート頼りになるは仲間なり  
 15年ぶりに回ってきた編集作業を始めて半年、九月下旬にようやく輪郭が見えてきました。

特集ページは垂水区全員でつくりあげたいと考えました。ご協力がくださった皆様ほんとうにありがとうございます。紙面の都合上、文面を編集させていただきました。ご承知ください。編集過程でお会いした方々からは暖かい思いやりをいただきました。又会場を提供していただいた並川さんに感謝します。改めて佐保会員であることの思いを深くしております。

大田・松浦・並川・龍田  
 都筑・八巻・山本

### 平成18年度支部総会

平成18年4月23日(日)

シーサイドホテル

舞子ビラ神戸

山陽舞子公園駅  
 JR舞子駅 下車



事務局便り



平成17年度 支部役員

役名	氏名	卒業年学部	住所
支部長	秋里 三和子	S27文	北区
副支部長	川口 登美子	S39家食	川西市
事務局	山本 よしみ	S33家食	西区
	鈴木 久子	S37家食	尼崎市
	寺田 翠	S37文幼	明石市
	射延 瑞枝	S42家被	三木市
	高階 時子	S48文国	加東郡
会計監査	加藤 澄子	S31文幼	垂水区
	藤岡 利子	S38家被	尼崎市
本部理事	秋里 三和子	S27文	北区
	貴田 康乃	S29家住	西宮市
本部評議員	光長 紀美子	S34理生	芦屋市
	鈴木 久子	S37家食	尼崎市
	川口 登美子	S39家食	川西市
	瀬川 順子	S41文英	中央区
佐保会学園理事	織部 ミチ子	S29家食	兵庫区
佐保会学園評議員	大田 奈緒美	S37理化	垂水区
大学婦人協会役員	吉江 順子	S35文社	宝塚市
	加藤 慶子	S41文史	灘区

- 平成16年度事業報告
- 第12回「若草」
- 第22回「佐保婦人学級」
- 6月6日(日)支部総会及び第12回「若草」定例会
- 8月25日(水)地区リーダー会(神戸ポルトピアホテル)
- 11月1日(月)第28号「支部だより」発行(須磨区担当)
- 11月14日(日)「睦会」(舞子ホテル 昭和36年卒業業者担当)
- 平成17年度事業計画
- 「樺の会」詳細別紙
- 5月1日(日)支部総会(シーサイドホテル・舞子ピラ神戸)
- 8月26日(金)地区リーダー会(神戸市勤労会館)
- 11月1日(火)第29号「支部だより」発行(垂水区担当)
- 11月5日(土)「睦会」(舞子ホテル 昭和37年卒業業者担当)

平成16年度会計報告並びに平成17年度会計予算

収入の部				支出の部		
費目	平成16年度決算	平成17年度予算	費目	平成16年度決算	平成17年度予算	
会費	2,231,000	2,235,000	本部会費	905,500	915,000	
内訳	本部会費	905,500	総会補助費	108,993	150,000	
	支部会費	1,325,500	通信費	218,845	220,000	
預金利息	6	10	印刷費	35,991	40,000	
本部より補助	53,360	54,000	交通費	100,240	115,000	
雑収入	0	0	事業費	名簿印刷費	150,000	
寄付	118,500	0		名簿送料	760	
小計	2,402,866	2,289,010		支部だより印刷費	200,000	
前年度繰越	3,023,964	3,243,766		睦会補助	50,000	
合計	5,426,830	5,532,776		若草補助	50,000	
資産内訳 (H17.3.31現在)			佐保婦人学級補助	50,000	70,000	
			リーダール会経費	62,420	70,000	
定額郵便貯金	1,850,000		もより会補助	94,600	110,000	
郵便貯金	153,538		慶弔費	72,820	100,000	
振替貯金	1,141,760		事務費	82,895	90,000	
現金	98,468		子備費	0	5,000	
計	3,243,766		小計	2,183,064	2,289,000	
(別途友愛貯金)			次年度繰越	3,243,766	3,243,776	
			定額郵便貯金	891,000		合計
郵便貯金	6,874					
現在高	897,874					
名簿印刷用積立金	150,000					